四国支部特集号に寄せて

Message to the Special Issue on Shikoku Branch

1938年生。1963年愛媛大学工学部電気工学科卒。現在、愛媛大学工学部電気電子工学科教授。1988年工学博士。

四国支部特集号編集 WG 代表 青野 正 明
Masaharu Aono

◀キーワード：四国支部，特集号，全国大会

平成11年度照明学会全国大会が四国支部の担当で開催されるのを機に、照明学会誌・四国支部特集号を発行することになった。四国支部は、会員数約220名で全国9支部のなかでも最小の部類に属する。しかし、照明に関係する企業や学校は多数あり、本特集号もハードからソフトの多岐にわたる記事を満載することができた。ハード関係では固体発光や放電ランプ、ディスプレイ、電極そして自動車用電球などに関する資料を、またソフト関係ではモンテカルロシミュレーション技法に関する資料を掲載した。施設の報告では、本年5月に開通した来島大橋を取り上げ、データシートでは近年設置された四国内の照明施設を紹介した。さらには、活発に研究・開発に取り組んでいる企業や学校の活躍振りを紹介した。頁数に制限があるため、いずれも十分意を尽くして書いていただけなかったのが、申し訳ないと同時に残念である。

次に、四国支部の最近の活動を簡単に紹介する。四国支部は、住宅、学校、店舗、商店街およびスポーツ照明などの診断ならびに普及促進、改善指導を積極的に行っている。毎年、照明基礎講座および照明専門講座を開講すると同時に、照明講演会を年数回主要都市において開催している。電気関係学会四国支部連合大会に参加して、例年約10件の照明部門の発表がある。照明普及賞候補に

は毎年多数の推薦があり、いずれも優劣付けがたく、選に漏れた数件を支部長賞で補っている。

さて、本大会会場のある屋島は、源平合戦の折、那須与一が扇の的を射落としたことで有名な壇ノ浦の近くに位置している。前回の四国大会は、四国と本州を初めて陸続きにした瀬戸大橋の開通に合わせて開催された。この大橋と昨年全線開通した鳴門一明石大橋のルートは、四国と本州を短時間で結ぶことによる経済効果を第一に狙ったものであるが、今春開通した今治と尾道を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」は、初めて歩道を併設した観光橋でもある。全部で10本の橋が島づたいに繋がっていて、沿線の島々には、全国の甲冑の8割を奉納してある大山祇神社、西日光といわれる耕三寺、最近開館した平山郁夫画伯の平山記念館などがある。風光明媚な青い国・四国も一見の価値がある。

最後に、本特集号を企画し、発刊の準備をしていた本部編集理事、ならびに多大のご尽力をいただいた支部長、支部役員、執筆者に衷心よりお礼を申し上げる。

四国支部特集号編集ワーキンググループメンバー：

青野正明、一ノ宮敬治、横溝雄二、長田正義、藤田進、横路重巳（図3）、岡本光次（図4）、濱田純夫、細谷正嗣、春日妃都美、山崎隆生（図2、平成10年度まで）。

図1 四国支部特集号編集 WG（後列左から濱田，細谷，横溝，春日，前列左から藤田，青野，長田，一ノ宮）

図2 四国支部特集号編集 WG(山崎)

図3 四国支部特集号編集 WG(横路)

図4 四国支部特集号編集 WG(岡本)